

## 第3分科会「里山と観光と食」

テーマ：里山の暮らしからデザインする

日時：2008年3月26日（水）  
場所：南房総市平群「ろくすけ」  
参加者：25名  
スタッフ：遠藤陽子・遠藤イサム

### 内容：

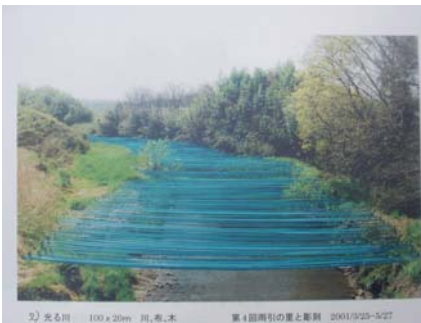
人と身近な自然、地域の暮らしの文化歴史などを大切にし、暮らしの知恵を学ぶ。平成16年～これまで月1回第3日曜日に作業を行ってきました。茅葺屋根の修理・長屋門・蔵の清掃・竹林と周辺の畑の開墾・地元のおばあちゃんの指導で味噌作り・など。月一回の作業なのですが、作業する事によって地域や、民家「ろくすけ」に隠れていた暮らし、生活の部分が微かにみえてくる様な気がします。私たちは、里山・里やま・と聞くとそれぞれの思いを意識します。思いを具現化するためには、と言うのが今回のテーマでもありました。民家「ろくすけ」は、西側の出入り口に長屋門・そして、母屋、土蔵の蔵、蔵の東側に畑と、北側には、北風を防ぐ為の「やま」南には斜面を利用した畑の面影があります。東側の畑は、日常食べる野菜が植えてあったと思います。「ろくすけ」の配置を見ると「もの」と「もの」との相互の関係が見えてきます。水と家畜の関係・水と野菜の関係・風と野菜や果樹との関係・そのために風除けの樹木の関係など、など、自然から学んだ暮らしの知恵が、この「ろくすけ」には多く隠れています。「里やま」は、農村の人々の暮らしの知恵の集積なのです。ここに関わる人たちが、「ろくすけ」周辺を各々の手足（体の一部分）の様に、潜在意識に刻みこむ事が出来たなら、「里やま」といわれた世界が見えてくると思います。





## まとめ

平成20年度は、母屋も少し改修し、里山の暮らしを楽しく体験できる場所にしてゆきます。その為には、「ろくすけ」から学んだ事や、生物多様性から学んだ、相互の関係が必要な事などを踏まえ、多くの方々との相互関係をより多く持つ為の仕組みを持つ事が今後の展開だと思っています。予定としては、来年の春、環境アートを通して「里山」という環境を知っていただければと催しを考えています。写真は事例です。



川に水色の布を張り 「光る川」 幅20m長さ100m



「光る森」地球環境の汚染を警告し3700㎡の雑木林に白い包帯を巻いた。



森に潜む不思議な生き物たちを「かたち」にしてみる。彼らが語りかけてくるものは？